

Media Information

2021年12月11日

FRJ 2021 ラウンド5 予選レポート

大草りき選手が渾身のアタックでライバルを圧倒し、鈴鹿大会ダブルポールを獲得！

Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ=FRJ)2021のラウンド5(レース12・13)が12月11日(土)に鈴鹿サーキットで開幕し、45号車の大草りき選手(PONOS Racing)が両レースともにポールポジションを獲得しました。



今シーズンの最終大会は、FRJ初開催となる鈴鹿サーキットが舞台となります。前回のSUGO大会と同様に2レース開催となり、11日(土)に公式予選、12日(日)に決勝レースを行います。

初日の専有走行から晴天に恵まれて、11時10分から始まった予選もドライコンディションで始まりました。

レース12のグリッドを決める公式予選1では、3大会目のエントリーとなる45号車の大草選手がライバルを圧倒する速さをみせ、開始8分を過ぎたところで1分57秒885を記録してトップに立つと、翌周には自身のタイムを更新する1分57秒613をマーク。2番手以下に0.362秒の差をつけてポールポジションを獲得しました。2番手には3号車の小川颯太選手(SUTEKINA Racing)、3番手にはランキング首位で最終大会を迎えた28号車の古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)がつけました。

マスタークラスでは、4号車の今田信宏選手(JMS RACING with B-MAX)が、同クラスのライバルを0.8秒引き離す1分59秒595を記録し、クラストップを獲得。2番手には7号車の畑享志選手(F111/3)、3番手には39号車の田中優暉選手(ASCLAYindサクセスES)と、クラスチャンピオンを争う2人がつけました。

10分間のインターバルを挟んで行われた公式予選2では、選手らが総じて予選1よりタイムを更新してくる中、大草選手がここでもひととき速さをみせ、1分57秒015で2レース連続のポールポジションを手にしました。2番手には最後のアタックで0.092秒差に詰めた古谷選手がつけ、3番手には小川選手が続きました。

マスタークラスの公式予選2も、今田選手が先ほどの自己ベストタイムをさらに更新する速さをみせ、1分58秒981で連続クラストップ、2番手に30号車のDRAGON選手(B-MAX ENGINEERING FRJ)、3番手には田中選手がつけました。

■ **レース12・13 ポールポジション 大草りき選手コメント**

「前回のSUGO大会で負けてしまったことが、僕の中で今までにないくらい悔しくて……今回はそれをなんとか晴らしたいと思っていたので、すごく気合いが入っています。まずは2つともポールポジションを獲得できて良かったです。コースの特性上、レースになると前のクルマについていくのがやっとなという感じになると思うので、まずはスタートを決めて、トップで1コーナーに入れば、勝率は一気に上がると思うので、そこに集中していきたいです。2連勝目指して頑張ります！」

■ **レース12・13 マスタークラストップ 今田信宏選手コメント**

「今週はずっと調子良く走っていたので、クラストップを獲れて良かったです。FRJで鈴鹿を走るのは初めてでしたが、今回コーチをしてきている千代勝正選手の走行データと見比べて、ブレーキングポイントをうまく修正して予選に臨めたことが、このタイムにつながっていると思います。クラスチャンピオンに関しては1大会3レース欠場していて自力で逆転できないので、とにかく2レースともクラス優勝を飾ることに集中していきたいです」

以 上

